

2021年12月15日

CDP の気候変動評価で 2 年連続「A –」を獲得

太平洋工業株式会社は、環境課題に関する取り組みや情報開示の質を評価する CDP の調査において、サプライチェーンとして回答し、昨年に続いて気候変動に関してリーダーシップレベルの「A –」の評価を受けました。

CDP は、2000 年にイギリスで発足した環境関連の企業の情報開示と取り組みを促す国際 NGO として、高い影響力をもっています。今年は世界約 13,000 社の企業が CDP を通じて情報を開示しました。

当社は「気候変動の緩和および適応」を含むサステナビリティに関する 15 のマテリアリティ（重要課題）と連動する形で、「PACIFIC 環境チャレンジ 2050」において、CO₂ 排出量を 2050 年までにネットゼロ、2030 年までに 50%削減（2019 年度比、スコープ 1, 2）とする目標を掲げ、グループ全体で取り組みを進めています。また、今年 5 月には TCFD への賛同を表明し、当フレームワークに基づく情報開示を開始しました。

また当社では、本取り組みを国連が 2030 年までに実現をめざす SDGs（持続可能な開発目標）のゴール 7（再生可能エネルギー）、13（気候変動）にも関連する取り組みに位置づけています。

今後とも、「気候変動への緩和と適応」を始めとしたサステナビリティ経営を進め、地球環境・社会とともに持続可能な成長を実現していきます。



CDP Web サイト

<https://japan.cdp.net/>

PACIFIC 環境チャレンジ 2050

<https://www.pacific-ind.co.jp/csr/environment/management/#2050>